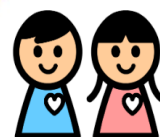




教育支援部ニュース



名古屋特別支援学校 教育支援部発行 令和 5 年度 第 2 号 R5.10 月

名北地区高等学校特別支援教育コーディネーター研修会報告

6 月 23 日に、明和高校で「名北地区特別支援教育コーディネーター研修会」が行われました。これは、高等学校で特別支援教育コーディネーターを行っている職員の研修会で、本校の特別支援教育コーディネーターが助言者の一人として参加しました。そこでは各校の特別支援教育の現状と取組についての報告がありました。高等学校においてもさまざまな配慮がなされています。以下にその一部を紹介します。

- ・自分の性に違和感がある生徒へのトイレ利用の配慮
- ・書体に UD フォントを使用
- ・日本語が不自由な生徒への、言語支援員による支援や授業外での日本語支援
- ・色覚障害を持つ生徒への、チョークの色やパワーポイントの色の配慮
- ・書字障害のある生徒へ、考査時間の延長、解答用紙の拡大、カメラやパソコン利用の許可
- ・移動が困難な生徒に対して、特別支援教育支援員による教室移動の支援



高等学校にも特別な配慮を必要とする生徒が多く入学するようになったことに伴い、保護者からの配慮の申し出がある場合は、出身中学校と個別の支援計画の申し送りを行うなど、支援の連携が図られるケースが増えてきたとのことです。

夏季施設見学報告

中央療育センター(わかくさ学園)

7 月 25 日(火)

職員 10 名で訪問し、午前中の療育の様子を参観させていただきました。名古屋市内で唯一の完全母子通園の施設ということで、保護者と保育士さんに見守られ、とても手厚い中での療育を見せていただくことができました。看護師さんも常駐し、定期的に理学療法士さん、作業療法士さんも入っていただいてアドバイスしてくださるなど、手厚い支援の様子が印象に残りました。小学部に上がる前の環境を目の当たりにすることで、保護者のニーズを理解する手がかりになりました。

北部地域療育センター 8 月 1 日(火)

11 名の職員が訪問し、施設の概要や療育の実際について学んできました。就学前のお子さんを対象にした通園療育では、日除けを設置した外プールで水遊びをする様子や、音楽療法の様子などを見学しました。どのクラスも、子供たち一人一人に合わせたきめ細やかで丁寧な支援が行われていて、皆がのびのびと楽しそうに活動している姿が印象的でした。見学の終わりには、施設の理学療法士と作業療法士の方からも挨拶をいただき、センターを利用している本校の児童の訓練について質問等あればいつでも相談してください、という心強い言葉を掛けていただきました。

夏季研修会報告

「見てみよう特別支援学校」

<FBM(ファシリテーション・ボール・メソッド)>

FB(ファシリテーション・ボール)を用いて「あおむけで乗り胸を広げる」「座位で乗りバランスをとる」など、児童生徒の実態に応じたさまざまなアプローチを、子ども役と教師役を交代しながら体験しました。また、二人で一つのFBに座り、一緒に跳ねたり立ち上がったたりするなど、ペアで行うアプローチにも挑戦しました。

参加者の方々からは、「とても参考になった」「すぐに実践したい」「FBを用いることで、コミュニケーションも広がるというのは興味深い」などの感想をいただきました。



<ふれあい体操>

障害の程度が重いお子さんを対象に考案された、「ふれあいリラックス体操」のねらいや触れる場所、触れ方について解説と体験による研修を行いました。二名一組で、互いに背中に触れて、相手の呼吸の様子を感じ取ったり、異なる触れ方をして、触れられた者がどのように感じるかを体験し、感想を伝えあったりすることから始めました。その後は、リラックスしやすい姿勢を作るための手立てや、手や足、脚や腹などの各部分の触れ方の解説と、曲に合わせて子どもの気持ちになって体験をし、50分の研修会を終えました。参加者からは、時間を取って勉強できるとよいという意見もありました。考案者が運営しているNPO法人「ひろがり」が公開しているユーチューブ動画で学ぶことも薦めました。

「発達障害の理解と対応」

<発達障害の基礎知識と保護者対応>

発達障害に含まれる「自閉スペクトラム症」「限局性学習症」「注意欠如多動症」の特徴や、その対応をする場合の注意点などについて講義をしました。その中で、障害のある子どもを持つ保護者の対応について話をしました。「保護者との関係づくりで必要なことは子どもをほめ、保護者をほめることである。保護者の協力者になることが大切である」ということを伝えました。参加者からは「具体的で参考になった」などの感想が聞かれました。

<学習到達度チェックリストを用いた目標設定>

徳永豊著『障害の重い子どもの目標設定ガイド』（慶應義塾大学出版会）を使い、その中の「学習到達度チェックリスト」を用いた実態把握と、国語と算数の目標設定についての講義と実習を行いました。国語や算数という教科の観点を活用していることから、特別支援学級でも使いやすいものです。参加者からは「早速使ってみたい」という感想をいただきました。

